

(様式4)

令和4年3月16日

富山県教育委員会教育長 殿

富山県立石動高等学校
校長 新保 暢

令和3年度学校総合評価を別紙(様式5)とともに提出します。

令和3年度 学校総合評価

6 今年度の重点課題に対する総合評価

「学習活動」「学校生活」「進路支援」「特別活動」の4領域で重点項目・課題を決め、それぞれに達成目標を設けている。今年度も新型コロナウイルス感染症防止対策を図りながら、授業や部活動などを行った。各種行事の中止や開催時期の変更、実施方法の見直しなどを行った。

4領域とも、昨年度の反省・課題を踏まえて重点項目に取り組んだ。「学習活動」では、生徒および教員用タブレットの配備が行われたことから教育用クラウドサービスやタブレットを利用した学習指導の推進を目標の1つとした。「進路支援」では、1・2年生において進路実現のための基礎学力の重要性を意識させるため、考査時の学習時間を設定して目標とした。各重点課題の評価等の概要は以下のとおりである。

(具体的な取組状況や評価の詳細は <別紙 様式5> に記載)

(1) 教育用クラウドサービスやタブレットを活用した学習指導等の推進

検定合格に向けて主体的に学習に取り組む能力の育成

生徒および教員用タブレットの配備が7月に行われた。8月後半に教員向けに教育用クラウドサービスやタブレットを利用した学習指導についての講習会を複数回行った。それを受けて、9月初めからの分散登校時には、リモート授業を全教職員で行った。クラス内での連絡や健康観察等にも用いた。

商業科では、多くの生徒が自らの目標を持って、主体的・意欲的に検定取得に取り組んでいる。検定に合格するためには商業科目の基礎をしっかり身につけた上で、自らの力を向上させていく必要があるなど、検定取得は学ぶ意欲や進路目標の達成にもつながっている。授業では、常に効果的な指導を模索し、工夫することが求められる。

(2) 規範意識の向上と規則正しい学校生活の確立

スマートフォンの普及に伴い、使用ルールやマナーを守らない生徒や依存症の生徒も見受けられる。携帯電話やスマートフォンの長時間使用を控え、ネット依存にならない方策を生徒自治委員会が中心となって活動した。学校ネットルール4箇条を守るほか、統一HRで「歩きスマホ」について話し合いその危険性や自分たちの行動について考えさせ、規範意識を高めていくよう働きかけた。また、生活習慣を整え心身の健康について主体的に判断する態度の育成を図るよう、生徒保健委員会で調査・研究を行ったり広報活動をしたりした。

(3) 進路意識の向上と家庭学習への自主的な取り組み

生徒への情報提供や面談の充実

1・2年生に対しては、自らの進路目標を実現するため、進路支援プログラムの事前・事後学習を充実させ、進路実現のために基礎学力の大切さを認識させることを目標とした。定期考査時にグーグルクラスルームを用いて学習時間を入力させた。考査前には、STなどを通じて学習時間の確保を呼びかけ、考査後には振り返りを行った。また、3年生に対しては、教員が積極的に進路の情報収集と情報共有を行い、学習指導、進路指導に取り組んだ結果、進路支援の満足度に対して全体として「ほぼ達成」できた。

(4) 特別活動に対する主体的参加

感染防止対策を講じながら学校行事や特別活動を検討・実施した。各活動に全校生徒が意欲的に取り組み、集団活動や体験活動を通して豊かな学校生活を築きながら連帯意識を育むことができた。体育大会は、生徒会執行部が種目の変更を検討し、学年を越えて様々な場面で生徒の自主的な活動を見ることができた。学校祭も1日開催としステージ発表を2回に分割、飲食スペースの会場を増やすなどの工夫を行った。また、部活動では、感染予防の取組みを行い、各部の実態に応じた目標を設定し、文化部および運動部とも効率的な活動を実践することができた。

7 次年度へ向けての課題と方策

- (1) 生徒の学びを保障するため、各教科でICT機器を活用した授業改善や教育用クラウドサービスを利用して主体的・対話的で深い学びを推進する授業づくりをさらに進めていくとともに、生徒のタブレット使用のモラルを高めさせる必要がある。商業科については、今後も粘り強く指導を行い、上級の資格取得に向かってチャレンジしようとする意欲を持たせたい。
- (2) SNSの利用に関しては、身近な事例を提示し生活習慣の改善や自己管理について注意喚起および広報活動をするとともに、生徒自らが考え注意し合うことで生徒主体の活動を増やし、規範意識を高める必要がある。
- (3) 家庭学習時間の伸長を図る取組みを進め、進路意識を醸成する行事や情報提供に努めるとともに、よりよい情報・学習環境の提供など進路目標の達成に生かせるような取組みを続けていく必要がある。
- (4) 感染防止対策を講じながら学校行事の実施方法の検討を行い、生徒が主体的に関わる活動の機会を設ける必要がある。部活動においても現環境下で体力・技術・精神面の充実を図る方法を検討し、取り組む必要がある。

重点項目	学習活動（学習におけるICT環境の整備と活用および学力の伸長）	
重点課題	①② 教育用クラウドサービスやタブレットを活用した学習指導等の推進 ③ 検定合格に向けて主体的に学習に取り組む能力の育成	
現 状	①② 生徒及び教員用タブレット1人1台配備に対応して、ICT機器や教育用クラウドサービス活用を積極的に進める必要があるが、生徒・教員ともに、未だ十分に活用できていない。また万が一、新型コロナウイルス感染症の蔓延によって、学級閉鎖や休校をせざるを得なくなった場合においても、生徒の学びを保障するために、オンラインによる学習指導も必要である。そこで、ICT機器を活用した授業改善や教育クラウドサービスの活用方法に関する研修会を随時行い、活用できる教員を養成し、効果的な活用方法を実践研究していきたい。 ③ 商業科の生徒はそれぞれの目標を持って、主体的・意欲的に検定取得に取り組んでいる。検定に合格するためには、高校に入ってから学ぶ商業科目の基礎をしっかりと身に付けた上で、それぞれの検定に合わせて自らの力を向上させていく必要がある。授業においても、生徒の学力を伸ばし、検定取得につながるように、常に効果的な指導を模索し工夫していくことが求められる。検定取得が生徒の学ぶ意欲や進路目標の達成にもつながっている。	
達成目標	① ICT機器や教育クラウドサービスを活用した授業等を行った教員の割合 ② ICT機器や教育クラウドサービスを活用した授業等で、その活用方法を理解し使用できた生徒の割合	③ 商業科：卒業までに全商主催検定9種目中、3種目以上で1級を取得した生徒数 (1)簿記 (6)珠算 (2)ビジネス文書 (7)電卓 (3)ビジネス情報 (8)英語 (4)プログラミング (9)会計実務 (5)商業経済
	いずれも 80%以上	10人以上（卒業年度）
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・教員に対するICT機器や教育クラウドサービスに関する研修を実施する。 ・互見授業を行い、ICT機器を用いた授業の積極的な実施と意見交換を促す。 ・生徒に対して、タブレットの導入に合わせて、その活用方法についての理解と積極的な使用を勧める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝や放課後の補習授業を実施する。 ・商業関連部活動を充実させる。 ・3年生1級未取得者に対する特別受験指導を実施する。 ・教員の指導力向上のための校内研修会を充実させるとともに、校外で開催されるセミナー等へ積極的に参加するよう努める。
達成度	① ICT機器や教育クラウドサービスを活用した授業等を行った教員の割合 100% ② ICT機器や教育クラウドサービスを活用した授業等で、その活用方法を理解し使用できた生徒の割合 100%	③ 全商主催検定1級3種目以上合格者 6名（昨年同時期22名） ※過去最高合格者数23名（平成23・24年度）
具体的な取組状況	①②新型コロナウイルス感染症の蔓延により、本校においても、8月末より生徒一人一台のタブレットが配備された。9月に入り、教育クラウドサービスを活用したオンライン授業を全員の先生方が、全クラスに対して実施した。分散登校から通常授業に戻ったあとも、引き続き多くの先生方が、タブレットによる授業に取り組んでいる。	③商業科教員の連絡を密にして個々の生徒の弱点が克服できるように資格・検定取得に向けて、各授業や朝・放課後等の補習や質問教室を実施した。
評 価	A	C
学校関係者の意見	使用しているICT機器の種類についての質問やオンライン授業後も機器を利用している教員の割合についての質問があり回答した。	合格者数が伸びなかった理由を明確にして、来年度への取り組みに活かして頂きたい。
次年度へ向けての課題	教育クラウドサービスの授業での利用を通じて、先生方のスキルは向上したが、生徒のタブレット使用のモラルが問題になりつつある。次年度は、タブレットの正しい使い方を身につけさせながら、より有効な利用を促す方策に取り組む必要がある。	現2年生は現在3種目2名(昨年0名)2種目合格20名(昨年9名)であり、3種目以上合格に向けて計画を立て取り組ませたい。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	学校生活（心身ともに健全な人格の育成）
重点課題	規範意識の向上と規律正しい学校生活の確立
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンの普及に伴い、使用ルールやマナーを守らない生徒やネット依存症の生徒も見られる。 ・ネットパトロールからの情報提供を受けて指導した生徒は、平成30年度は10名、令和元年度は9名と急増したが令和2年度は3名と減少した。 ・携帯電話やパソコンに関するアンケート結果より、また、平日3時間以上使用している生徒は、令和元年度は40.9%、令和2年度は、38.7%で、長時間使用が生活のリズムを崩し、家庭学習時間や睡眠時間の確保の妨げになっている。また、ネット依存チェックの調査結果では、全校生徒の46.7%は、生活に何らかな悪影響が出ている状況、5人の生徒は重大な問題があると診断評価されている。 ・生徒が自ら学校ネットルール4箇条を決定し、働きかけているが、いまだに規範意識の低い生徒が多い。 ・不規則な生活習慣により不調を訴える生徒がいるため、基本的な生活習慣が確立するように心身の健康について主体的に考え、判断し、行動する態度の育成が必要である。
達成目標	<p>① 学校ネットルール4箇条のうち、3箇条以上遵守できる者の割合 80%以上</p> <p>② 生活習慣にかかわる広報活動を各学期に1回行う。</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話やパソコンに関するアンケート、ネット依存チェックで実態を把握し、イレブンセブン運動やネットルール4箇条の遵守を積極的に推進することで、長時間の使用を控えさせ、ネット依存にならないよう指導を行う。 ・情報モラルやセキュリティの意識向上を図るために授業以外に学習する機会を増やすと同時に、教職員が携帯電話に関する知識を深める機会を設けて、生徒への指導を充実させる。 ・家庭でスマートフォンの使用について話し合う機会を持つなど、PTA総会や各学期の保護者会等で保護者に協力を要請する。 ・生徒が問題意識をもって主体的に活動できるよう環境を整える。 ・生徒保健委員会で生活習慣について知りたいことを話し合い、調査・研究を行う。
達 成 度	<p>① 学校ネットルール4箇条のうち、3箇条以上遵守できる者の割合 87.2%</p> <p>② 保健だより等の情報紙の発行回数 7回（1学期2回、2学期2回、3学期3回）</p>
具体的な取組状況	<p>① 生徒自治委員会がネットルール4箇条意識調査・ながらスマホに関するアンケート調査（全校生徒対象）の実施や統一HRにおいて「歩きスマホ」によって加害者になり得ることを考え、「歩きスマホ」がどうしてもなくなるのかについて話し合い、「歩きスマホは、危険である」ことを認識して、周りの人や自分自身を守る行動を取ることを呼びかけ、意識の高揚を図った。</p> <p>② 新しい生活様式の実践、熱中症予防、心のケアや性に関することなど、時期に応じた話題を取り上げ、生徒の心身の健康に役立つ情報を発信した。また、文化祭では「ストレスの解消法」などの身近な問題に取り組み、調査・研究をとおして健康情報の発信をおこなった。</p>
評 価	<p>① A</p> <p>② A</p>
学校関係者の意見	学校ネットルール4箇条のうち3箇条ではなく、4箇条すべて守るよう指導しているので、4箇条遵守するものの割合を目標にした方がよいのではないかと。来年度に向けて検討してほしい。
次年度へ向けての課題	<p>① ・長時間使用が生活習慣（睡眠や健康面）に及ぼす影響についても、広報活動を各学期に実施し、能動的に思考する環境を整える。</p> <p>・クラスごとのルールや達成目標を決め、生徒自ら考え注意し合うことにより、自己管理できる環境を作る。</p> <p>② 不十分な自己管理が原因で体調を崩す生徒が後を絶たないため、自律した行動がとれるように、生活習慣に関わる情報発信を継続して行い、心身の健康について啓発する。</p>

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	進路支援（自己実現に向けて生徒自らが努力するための支援の充実）	
重点課題	① 進路意識の向上と家庭学習への自主的な取り組み ② 生徒への情報提供や面談の充実	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒の進路選択と実現のために本校独自の様々な進路支援プログラムを行っているが、自分の進路目標を実現するためには家庭学習に真剣に取り組むことが不可欠であるという意識が低い生徒がおり、進路目標と日々の取り組みが一致していない生徒の様子がみられる。 ・受験のシステムや各大学・企業などの情報がどんどん変化する中で、生徒個人では得られる情報に限度がある。できるだけ多くの、また有益な選択肢の中から生徒が進路決定を行えるような支援が必要である。 	
達成目標	① 1・2年生：進路実現のための基礎学力の大切さを意識させ、考査時学習時間の平均 1日3時間以上	② 3年生：進路支援の満足度 4段階評価による3以上が 80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の進路支援プログラムの事前・事後の進路学習を充実させ、進路意識を高めながら学習の大切さを理解させる。 ・学習時間の記録を行い、生徒の学習内容や意欲などを把握することにより、細かな声掛けやアドバイス等を行う。 	・教員が積極的に進路の情報収集と情報共有を行い、学習指導、進路指導を効果的に行う。
達 成 度	① 2学期末考査時 1・2年平均学習時間 2時間49分 （1・2年普通科 2時間58分） （1・2年商業科 2時間20分） 参考 2学期中間考査時 2時間22分	② 「先生たちは、生徒の学力を伸ばすために努力している」 3以上の割合 98.0% 「学校から進路に関する情報が与えられている」 3以上の割合 97.9% 「先生たちは、生徒の進路実現に向けて面談や個別指導を行っている」 3以上の割合 99.3% （4＝よくあてはまる、3＝あてはまる） ほか3項目
具体的な取組状況	① 1学期末考査時からGoogleクラスルームを利用した学習時間調査を開始した。生徒は健康観察とともに、毎朝前日の学習時間を入力している。集計を取ったところ、目標学習時間3時間に対して、1学期末考査時では、1・2年生の平均学習時間が2時間12分であった。特に考査発表になってから、考査前日までの学習時間が短いことがわかった。そのため、集計結果を教員間で共有し、考査前にはショートタイムなどを利用して生徒に学習時間の確保を呼びかけた。また、各考査後、生徒に考査の「振り返り」を実施し、考査に対して十分な準備ができなかったと感じている生徒には、理由を考えさせる機会を設けた。	② 3学年においては、4月から数多くの個別面談を行い、本人や保護者の進路希望の確認や受験方式のアドバイスなどを行っている。また、受験生としての心構えを伝え、進路意識を高めるために、外部から講師の先生を招き、進路集会を行った。推薦入試に臨む生徒に対しては、3学年担当者に限らず、学校全体で受験指導にあたった。個別指導や自主学習の場所が不足しているという状況があり、少しでも学習しやすい環境を整えるため、コミュニケーションコーナーの整備に取り組み、以前より多くの生徒がコミュニケーションコーナーで学習する様子が見られるようになった。
評 価	B	A
学校関係者の意見	現3年生の進路状況について、また、商業科の進路状況質問があり回答を行った。インターンシップと就職状況についてのマッチングの質問があったが、現在はコロナウイルス感染拡大の懸念からインターンシップが行われていない状況を説明した。	
次年度へ向けての課題	① 各考査後の振り返りでは、学習時間が確保できなかった理由として、「やらなくてはと思うがだらだらしてしまい、時間がなくなってしまった」が一番多く挙げられた。まだまだ学習時間は十分ではないが、やらなくてはいけないという気持ちを持っているということプラスの材料と捉え、進路実現のための学習の大切さを様々な機会に伝えながら、学習時間の伸長を図っていく必要がある。 ② アンケート集計の中で、3以上の割合が最も低い値だったのは、「石動高校は、進路実現のために学習しやすい環境が整っている」に対するものであった。低い評価をした理由として、「自習できる場所がない」というものが挙げられており、進路支援の1つとして、今後もよりよい情報・環境など、生徒が求めているものを提供できるような取り組みを続けていかなければならない。	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	特別活動（学校行事を通して自主的な態度の育成）
重点課題	特別活動に対する主体的参加
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事である体育大会や球技大会では、生徒達は意欲的に取り組む姿が見られ、これらの集団活動や体験的な活動を通して、豊かな学校生活を築きながら自主性や連帯意識を育んでいる。 ・本校部活動数は運動部13、文化部10あり、部活動加入率は運動部約63%、文化部約29%、全体で約92%と、多くの生徒が部活動に参加している。
達成目標	① 学校行事（体育大会、石高祭、球技大会）に対する充実度 5段階評価による 4以上が70%以上 ② 部活動に対しての充実度や結果に対する満足度 5段階評価による 4以上が70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動を充実させ、代議員会等を適宜開催するなどして、生徒の視点から参画させることで、より多くの生徒が主体的に関われる活動の機会を設ける。 ・部活動登録後、全体計画・活動内容等を部員と話し合い、個人や集団の実態に応じた目標を持たせる。 ・学校行事や高体連並びに高文連主催の各種大会等後にアンケートを実施し、その結果を踏まえ、今後の活動に検討・改善を行う。
達成度	① 体育大会についてのアンケート結果 5段階評価による4以上 総合評価（89.1%） 石高祭についてのアンケート結果 5段階評価による4以上 総合評価（92%） ※球技大会は実施せず ② 部活動についてのアンケート結果（1・2年生、3年生の順） 運動部 評価4以上 活動計画や活動内容（63.7%、76.8%） 活動時間や休日（58.3%、74.7%） 各種大会または各種発表会（28.3%、35.8%） 文化部 評価4以上 活動計画や活動内容（74.5%、77.5%） 活動時間や休日（83.6%、85%） 各種大会または各種発表会（52.8%、65%）
具体的な取組状況	① 学校行事 体育大会は新型コロナ感染防止対策の取り組みとして種目数の削減、種目の変更など生徒会執行部が中心になって検討して、予定通り6月に実施することができた。石高祭は新型コロナ感染防止対策として2日間開催を1日開催とした。ステージ発表を午前・午後の2回に分け、会場入場生徒数を制限した。また飲食については飲食スペースを3会場設営して、そこ以外は飲食禁止とした。球技大会は3密を避けて実施することが難しいことから、今年度も中止となった。 ② 部活動 ホッケー部については全国高校総体にて女子が優勝、男子が5位、全国高校選抜にて女子が3位を果たした。野球部は夏の県大会にてベスト8進出した。卓球部女子部員が北信越選抜大会に出場した。新聞部が全国高総文祭に6年連続で出場した。吹奏楽部は中部日本コンクール県大会にて金賞を受賞した。珠算経理部は県大会で入賞し、全国商業高等学校ビジネス計算競技大会に出場した。
評 価	① A ② C
学校関係者の意見	部活動の成績についての評価については、厳しいと感じる。1回戦で負ければ自己評価は低くなる。中学校の部活動は地域へ移行しているが、高校の状況や外部指導者についての質問があった。令和5年度からの3年間に中学校では状況が変化していくので、高校との合同部活動や活動を地域へ開放するなどの策があることを説明した。また、外部指導者やスポーツエキスパートをお願いしている部活動を回答した。
次年度へ向けての課題	次年度も感染防止対策を講じながら学校行事や特別活動を検討・実施していくことになる。2年間実施を見送った球技大会については次年度、学年との話し合いも含め検討していきたい。部活動に関しては、今後も生徒一人一人に感染防止対策への意識を高めさせ、感染予防の取り組みをさらに強化させていくとともに、この環境下の中でも体力・技術の向上、精神面の充実を図る練習方法などを顧問と部員が知恵を絞り、取り組むことが必要である

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）